庵治石

AJIISHI

香川県高松市の東部で採れる庵治石（あじいし）は、日本三大花崗岩の一つとしても知られ、今では世界でも「花崗岩のダイヤ」と呼ばれ、高く評価されている高級石材です。産地ならではの伝統と、千年の歴史を持つ先人から受け継いできた卓越した技術を駆使し、素材や技法の掛け合わせから、新しい庵治石プロダクツが生れています。

1.

2.

3.

4.

1._硝子工芸作家の杉山利恵さんによる、庵治石を硝子に溶かし込んで鮮やかなブルーに発色させる「庵治石硝子」
Rie Glass Garden : リングホルダー しずく 大 4,800円・小 3,800円

2._「暮らしに寄り添う庵治石」をテーマに生まれた生活雑貨プロダクト「AJI PROJECT（アジプロジェクト）」
AJI PROJECT : MON/NEJIRI 4,800円

3._香川漆器の技法の一つ「象谷塗」をアレンジ。庵治石の石粉と漆を混ぜ合わせたもので模様をつけ、さらに錫紛を蒔き付けメタリックに仕上げた茶箱。
さぬきうるしSinra : 象谷茶箱 80,000円

4._香川漆器・庵治石で出来た石がもつ表情や重量感、そして漆独特の口当たりや美しい色彩が特徴の「庵治漆」
中田漆木 : 庵治漆 -AJIURUSHI- Cup S 各12,000円 / 讃岐石地塗 角皿 大 6,000円・小 3,000円

※商品価格は全て税抜き表記です。

香川漆器 蒟醤

KINMA

香川漆芸の代表である蒟醤（きんま）は、タイ国の植物の実の名称だといわれ、何回も塗り重ねた上に「刀（けん）」で文様を線彫りしてそのくぼみに色漆を充填する技法で、一種の漆による象嵌（ぞうがん）です。漆の面を彫るという点では、沈金と変わらないようですが、朱漆、黄漆の色ごとに彫りあげ充填させる作業を繰り返し、全部の充填が終わると表面を平らに研ぎ出すといった独特の技法です。

漆作家 松本光太
香川県漆芸研究所研究過程を終了後、現代の香川漆芸における代表的存在であり、蒟醤の技法で重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定された磯井正美氏に師事。2012年香川漆芸の作り手の力を集め、その未来を創造して行くための団体さぬきうるしSinra「森羅」設立。

蒟醤香合「輪」「めだか」
各100,000円

肥松木工

KOEMATSU

香川の伝統的工芸品「肥松木工」。
肥松（こえまつ）は、樹齢数百年の黒松の幹の中心部分のこと。気候が温暖で雨の少ない香川県では、昔から良質な肥松がとれ、江戸時代から木工品がつくられてきました。肥松は脂分を多く含むため、その工芸品には次第に光沢がつき、光にかざすと年輪が赤く透けるのが魅力です。その肥松を仕上げるには、油分の多い材のため自然乾燥させるだけでも20年以上かかります。また、害虫などにより300年も生きる老木は少なくなりました。クラフト・アリオカは、長年の経験でその貴重な肥松材のよさを生かしたものづくりをおこなっています。

クラフト・アリオカ : 肥松 小鉢4.5寸 10,000円